

【12】 グローバル・スタディーズ研究科 後期課程 講義概要

○は春学期科目、△は秋学期科目

アメリカ研究クラスター

2020年度以降生 41810110-001 ○アメリカ特殊研究Ⅰ・① 41810110-011 △アメリカ特殊研究Ⅰ・①	Gavin J.CAMPBELL	この授業は「アメリカ特殊研究」と連動しているものと位置づけ、「アメリカの歴史と社会」に関する、大学院生の博士学位論文の中心的な研究テーマや方法論について研究をより深化させるための研究指導を行う。「アメリカ特殊研究」で行う博士学位論文作成の準備をさらに促進させ、その完成を目指す。
2019年度以前生 41810010-001 ○アメリカの歴史と社会① 41810010-011 △アメリカの歴史と社会①		
2020年度以降生 41810140-001 ○アメリカ特殊研究Ⅳ・① 41810140-011 △アメリカ特殊研究Ⅳ・①	秋林 こずえ	本コースは、「アメリカの社会と文化」に関する博士論文を作成するために必要な知識と技術を理論と実践の反復 (learning by doing) を積み重ねることにより習得し、発表 — フィードバック — 実践のPDCAプロセスを通して、各自の研究の深化と進展をはかることを目的とする。定期的な発表の他、毎週、各々のプロジェクト・ステージに見合った成果を提出することを義務づける。
2019年度以前生 41810030-001 ○日米関係論① 41810030-011 △日米関係論①		
2020年度以降生 41810120-001 ○アメリカ特殊研究Ⅱ・① 41810120-011 △アメリカ特殊研究Ⅱ・①	南川 文理	本授業では、アメリカ研究における社会・文化分野に関する博士学位論文を作成するために必要な理論、方法論および関連する研究動向を把握することを目的とする。とくに、人種・エスニシティ研究、移民研究、多文化社会研究に関する重要な著作や学術論文を取り上げて精読し、その背景にある理論的枠組、方法論的関心、そして事例研究への応用方法について議論する。
2019年度以前生 41810040-001 ○アメリカの社会と文化① 41810040-011 △アメリカの社会と文化①		
2020年度以降生 41810150-001 ○アメリカ特殊研究Ⅴ・① 41810150-011 △アメリカ特殊研究Ⅴ・①	岡野 八代	学生の研究テーマの理論的背景をなす、アメリカにおける個人・共同体・国家をめぐる思想的な議論を独力で展開する力を養成することを目的とする。そのために、アメリカ社会の理念的特徴である個人主義と共同体との関係性を理解し、その関係性が国家観にどのような影響を及ぼしているかについて、テキストの慎重かつ批判的な読解を実践する。講義の形態は、共通テキストの読解を各自報告し、たがいにその報告について論評しあいながら、アメリカ社会の思想的背景について知識を深めていく。
2019年度以前生 41810050-001 ○アメリカの政治と社会① 41810050-011 △アメリカの政治と社会①		
2020年度以降生 41810160-001 ○アメリカ特殊研究Ⅵ・① 41810160-011 △アメリカ特殊研究Ⅵ・①	菅野 優香	ジェンダーをめぐる諸問題、すなわち、性差が構築されるあり方と、構築された性差が今度は社会関係や社会構造を生み出していくあり方について思考することを目指す。アメリカにおいて、ジェンダー規範やジェンダー・アイデンティティが生成されるメカニズムを具体的に分析しながら、ジェンダーがセクシュアリティや人種とどのように交差し、表現され、利用されるのかを理論的かつ歴史的視点から問い、研究テーマについての先行研究、方法論、議論等を深化させるための指導を行う。
2019年度以前生 41810060-001 ○アメリカのジェンダーと社会① 41810060-011 △アメリカのジェンダーと社会①		

2020年度以降生 演習Ⅰ・Ⅱ		本演習は、アメリカ研究に関する博士学位論文作成のための準備をし、受講生に論文作成に必要な理論、知識、方法論を修得させることを目的として行われる。受講生は先行研究論文、関連論文や主題展開のための方法論、データ収集・解析法などに関する課題レポートや研究発表を行い、討議、論評、点検を通して、学位論文の作成に不可欠な論理的思考能力、批判的読解・分析能力、視点の独創性を養うことをめざす。
2019年度以前生 アメリカ特殊研究		
2020年度以降生 41810100-001 ○演習Ⅰ・① 41810200-001 △演習Ⅱ・①	Gavin J.CAMPBELL	この授業では博士後期課程の学生が「アメリカの歴史と社会」に関連する研究テーマについての博士学位論文の作成のための準備を行うが、とくにアメリカの歴史に関する基礎的、先端的な先行研究を徹底的に読みこなし、各自の具体的な研究関心をより広い歴史的文脈のなかに位置付けるよう指導する。
2019年度以前生 41810000-001 ○アメリカ特殊研究① 41810000-011 △アメリカ特殊研究①		
2020年度以降生 41810100-002 ○演習Ⅰ・② 41810200-002 △演習Ⅱ・②	秋林 こずえ	本授業はアメリカ研究をテーマとした博士学位論文作成を進めるために、受講生の研究発表を中心とした演習形式をとる。「地域研究を超えた」アメリカ研究において特に「ジェンダー」を中心的な分析視座とすることに留意し、博士学位論文作成のためにとどまらず、将来携わるであろう研究教育の基礎とするためのしっかりとした先行研究の構築を目指す。その上で授業内での議論を通して、各々の研究の独創性を深めることを本授業の目的とする。
2019年度以前生 41810000-002 ○アメリカ特殊研究② 41810000-012 △アメリカ特殊研究②		
2020年度以降生 41810100-003 ○演習Ⅰ・③ 41810200-003 △演習Ⅱ・③	南川 文里	本演習は、アメリカ研究における社会・文化分野に関する博士学位論文の作成に向けて、個々の受講生の研究発表を中心に進める。受講生は、アメリカ研究における自身の問題関心を先行研究と理論的関心のなかに位置づけ、研究倫理を尊重し、創造的で独自性のある問題設定と研究計画にもとづく研究を着実に遂行することが求められる。演習では、段階的に研究報告を行い、教員や受講生との議論を通して、学術的なコミュニケーションの方法や論文執筆の技法を身につける。
2019年度以前生 41810000-003 ○アメリカ特殊研究③ 41810000-013 △アメリカ特殊研究③		
2020年度以降生 41810100-004 ○演習Ⅰ・④ 41810200-004 △演習Ⅱ・④	菅野 優香	本授業は、博士論文作成に向け、具体的かつ基礎的な準備作業を行うことを目的とする。主に、アメリカのジェンダーやセクシュアリティに関連したテーマに取り組む学生を対象に演習形式で授業を進め、先行研究の検討や、理論的枠組みの整理、方法論の確認などを行う。各自、進行状況に応じて研究発表を行い、他の受講生はそれに対し効果的で意義のあるフィードバックを行うことを義務とする。
2019年度以前生 41810000-004 ○アメリカ特殊研究④ 41810000-014 △アメリカ特殊研究④		
2020年度以降生 41810100-005 ○演習Ⅰ・⑤ 41810200-005 △演習Ⅱ・⑤	岡野 八代	アメリカ政治学系の雑誌から国内政治や社会関係などに様々な形で影響を与えた重要テーマに関する一連の論文をピックアップし、一つのテーマを歴史的・法学的・政治学的・思想的などの複数のパースペクティブから論じることの重要性を理解する。一つのテーマに絞り、その関連論文を読み込むことで、自らの研究に必要な先行研究の選択や独創性に必要となる構想力を養うことが目標である。
2019年度以前生 41810000-005 ○アメリカ特殊研究⑤ 41810000-015 △アメリカ特殊研究⑤		

現代アジア研究クラスター

2020年度以降生 41820110-001 ○現代アジア特殊研究Ⅰ・① 41820110-011 △現代アジア特殊研究Ⅰ・①	巖 善平	本授業では、現代中国が直面する主な問題を取り上げ、それらに対する内外の最高レベルの研究成果を踏まえながら解説する。各人の専門的研究領域の裾野を広げることが主な目的である。具体的に以下のような 이슈が考えられる。高度経済成長は中国の社会構造や人々の意識にどのような影響を与えたか、独裁的政治体制と市場経済の円満な結合は果たしてありうるのか、都市と農村の二重構造や経済格差、教育機会の不平等、環境と開発の両立といった問題をどのように考えるべきか。
2019年度以前生 41820010-001 ○現代中国社会・文化論① 41810010-011 △現代中国社会・文化論①		
2020年度以降生 41820120-001 ○現代アジア特殊研究Ⅱ・① 41820120-011 △現代アジア特殊研究Ⅱ・①	太田 修	本演習では、博士論文作成に向けての基礎的作業を行なう。20世紀の朝鮮半島の政治・経済・社会・文化研究に関する2、3の主要テーマを選び、それらのテーマに関する専攻研究を読解、整理、発表することを通して、最新の研究の到達点を理解する。さらに、重要な論点について参加者全員で討論し、問題点と課題について理解を深める。その際、東アジアや他の諸地域との関連の中で横断的に考えるとともに、当該期の史資料についても検討し、テーマについての考察を深める。
2019年度以前生 41820020-001 ○朝鮮半島の社会・文化論① 41820020-011 △朝鮮半島の社会・文化論①		
2020年度以降生 41820130-001 ○現代アジア特殊研究Ⅲ・① 41820130-011 △現代アジア特殊研究Ⅲ・①	小山田 英治	途上国（特に東南アジア諸国）の社会と政治問題を様々な側面より取り上げ、テーマ別に研究すると共に、学生の研究テーマと関連性あるトピックを選択し講義を展開する。その際、学術や政府・国際機関刊行物を中心に活用することにより、変化しつつある東南アジアの社会政治情勢における最新の情報を学び、学生の研究活動への更なる知識を深めさせる。また外部の講師（途上国や東南アジア諸国からの研究者や政府職員等）を積極的に招き、国内での研究活のみでは補うことが出来ない知識や考え方、そして情報を収集する。
2019年度以前生 41820030-001 ○東南アジアの社会・政治論① 41820030-011 △東南アジアの社会・政治論①		
2020年度以降生 41820140-001 ○現代アジア特殊研究Ⅳ・① 41820140-011 △現代アジア特殊研究Ⅳ・①	富山 一郎	この演習では、日本の近現代史にかかわる具体的なテーマを取り上げ、それぞれの事象の歴史的意味を、アジア地域との関係性において検討する。その際、日本帝国による植民地支配、ならびにその痕跡や植民地支配に対する責任の問題が重要な議論の軸となる。また地政学的な国際比較ではなく、個別事象にあくまでも焦点を絞った横断的な研究の可能性を探りたい。基本的には博士論文作成を念頭においた演習であるが、日本帝国あるいは、東アジア近現代史全体にかかる問題全般に関心のある人の参加を求める。
2019年度以前生 41820040-001 ○アジア比較社会論① 41820040-011 △アジア比較社会論①		
2020年度以降生 41820150-001 ○現代アジア特殊研究Ⅴ・① 41820150-011 △現代アジア特殊研究Ⅴ・①	村田 雄二郎	習近平政権の下で「超大国」化の道を進む現代中国と周辺諸国・地域との関係を歴史的に位置づけるために、19世紀以降の東アジア国際秩序の変動を、政治・軍事・経済・文化などの諸側面から総合的に分析する。さらに、中華人民共和国の成立のプロセスを歴史的連続性の中で考察すべく、戦争と民主化をキーワードに、国際関係も視野に収めつつ、集団化時代（1953-78）および改革・開放時代（1978-）の政治と社会について多面的に考察する。
2019年度以前生 41820050-001 ○アジア地域間関係論① 41820050-011 △アジア地域間関係論①		

<p>2020年度以降生 41820160-001 ○現代アジア特殊研究Ⅵ・① 41820160-011 △現代アジア特殊研究Ⅵ・①</p>	<p>錢 鷗</p>	<p>この演習は近現代中国の歴史・思想・文学または日中比較思想・東アジア文化交渉学に関する分野を研究する者を対象とする。博士論文作成に向け、基本的文献や専攻研究の評価による問題の所在の究明、自らの研究の立場や研究方法の客観化を目指す。テーマの選び方、文献の収集・批判、研究の具体的展開と結論を報告し、専門的質疑と講評を積み重ねて博士論文の完成を目指す。</p>
<p>2019年度以前生 41820060-001 ○アジアの歴史と文化① 41820060-011 △アジアの歴史と文化①</p>		
<p>2020年度以降生 演習Ⅰ・Ⅱ</p>		<p>本演習は、現代アジア研究に関する博士学位論文作成のための準備をし、受講生に論文作成に必要な理論、知識、方法論を修得させることを目的として行われる。受講生は先行研究論文、関連論文や主題展開のための方法論、データ収集・解析などに関する課題レポートや研究発表を行い、討議論評、点検を通して、学位論文の作成に不可欠な論理的思考能力、批判的読解・分析能力、視点の独創性を養うことをめざす。</p>
<p>2019年度以前生 現代アジア特殊研究</p>		
<p>2020年度以降生 41820100-001 ○演習Ⅰ・① 41820200-001 △演習Ⅱ・①</p>	<p>富山 一郎</p>	<p>本演習では、博士論文作成に向けての基礎的作業を行なう。基本的には各自の博士論文のテーマに即した報告と討議によって構成されるが、参加者のテーマを横断するような共通の課題を設定することも考えている。また討議空間をどのように構成し、維持していくのかということも、個別のテーマを通底する論点として設定しておきたい。演習とは各自の個別論文に結実するだけでなく、場の形成でもあるからだ。したがって、参加者は必ずしも日本研究において博士論文を執筆するものに限定せず、より横断的な討議空間の構築を目指す。</p>
<p>2019年度以前生 41820000-001 ○現代アジア特殊研究① 41820000-011 △現代アジア特殊研究①</p>		
<p>2020年度以降生 41820100-002 ○演習Ⅰ・② 41820200-002 △演習Ⅱ・②</p>	<p>巖 善平</p>	<p>特殊研究では、現代中国の経済と社会に関する各人の博士学位論文のテーマと枠組みについて深く議論し、博士課程1年目の早い時期にそれを固める。その後サブ・テーマを具体化し論文作成に向けての準備を進め、途中成果を授業で報告する。論文の形がほぼ出来上がった段階で学会報告、学術雑誌への投稿を目標に理論、方法、結果の解釈に対する更なる検討を積み重ねていく。年に1本か2本のペースで論文を執筆することが必要である。</p>
<p>2019年度以前生 41820000-002 ○現代アジア特殊研究② 41820000-012 △現代アジア特殊研究②</p>		
<p>2020年度以降生 41820100-003 ○演習Ⅰ・③ 41820200-003 △演習Ⅱ・③</p>	<p>村田 雄二郎</p>	<p>本演習では、博士論文の作成に向けた準備を行う。主として、近現代中国の政治と思想を扱うが、常にアジアの他地域との関連や比較を意識した指導を進める。論文作成に必要な理論や作法、先行研究に幅広く触れながら、資料やデータの扱い方についても、実践的なトレーニングを積む。まず、参加者全員で、基礎的文献やデジタル・アーカイブの情報をできる限り広く共有し、その後、個別にテーマの設定と構想発表を行い、質疑や討論を通じた、問題意識の深化と発展をめざす。</p>
<p>2019年度以前生 41820000-003 ○現代アジア特殊研究③ 41820000-013 △現代アジア特殊研究③</p>		

2020年度以降生 41820100-004 ○演習Ⅰ・④ 41820200-004 △演習Ⅱ・④	太田 修	本演習では、博士論文作成のための準備を行なう。20世紀の朝鮮半島の政治・経済・社会・文化に関する研究テーマを中心に扱い、各自の研究テーマについて、当該期の史資料に基づいて理解し、歴史として究明していくことを目指す。その際、東アジアや他の諸地域との関連の中で考察を深めていく。担当教員は各人の研究の進行状況に合わせて指導を行なう。演習では各自が研究テーマについて発表し、参加者全員による質疑と講評を通して、研究を前進させていく。
2019年度以前生 41820000-004 ○現代アジア特殊研究④ 41820000-014 △現代アジア特殊研究④		
2020年度以降生 41820100-005 ○演習Ⅰ・⑤ 41820200-005 △演習Ⅱ・⑤	小山田 英治	特殊研究では、現代アジアに関する博士論文作成のための準備を行う。主として東南アジア地域を中心とした政治、文化と社会に関する研究テーマを扱う。教員は各受講生のテーマ選択に適切な助言を与えるとともに、論文作成に必要な理論、知識、方法論を習得させるよう努める。また国内での研究活動のみでは補うことが出来ない知識や考え方、そして情報を可能な限り収集し受講生に提供したい。受講生は先行研究論文、関連論文や主題展開のための方法論、データ収集・解析法などに関する課題レポートや研究発表を行い、学位論文の作成に不可欠な論理的思考能力、批判的読解・分析能力、視点の独創性を養うことをめざす。
2019年度以前生 41820000-005 ○現代アジア特殊研究⑤ 41820000-015 △現代アジア特殊研究⑤		
2020年度以降生 41820100-006 ○演習Ⅰ・⑥ 41820200-006 △演習Ⅱ・⑥	錢 鷗	この授業では博士後期課程の学生が、中国の政治・歴史・思想・文化、あるいは日中比較政治思想、・日中文化交流史に関連する研究テーマで博士學位論文を執筆する準備作業として、そのテーマに関する基礎的文献、重要な先行研究をしっかりと理解し、各自の具体的な研究テーマをより広い理論的・歴史的脈のなかに位置付けることができるよう指導する。研究の親テーマと枠組みを固めた後、子課題を選び出し、研究の具体化に向けて進み、中間成果を授業で報告する。この段階を経て学生たちは、学会報告、学術雑誌への投稿を目標に、問題設定、結果の解釈、方法論への批判といった議論をさらに深めていく。博士後期課程在学中、2本以上の学術論文を執筆することが必要である。また、海外留学の意欲を持つ学生の要望に応じ、留学に関するアドバイスや推薦を積極的に行う。
2019年度以前生 41820000-006 ○現代アジア特殊研究⑥ 41820000-016 △現代アジア特殊研究⑥		

グローバル社会研究クラスター

2020年度以降生 41830110-001 ○グローバル社会特殊研究Ⅰ・① 41830110-011 △グローバル社会特殊研究Ⅰ・①	内藤 正典	国境を越えた人の移動は、移民であれ、難民であれ、様々な事情から、母国へ帰還せず、定住することが多い。20世紀後半の、発展途上地域から先進地域への移動の結果、ヨーロッパには、移民によるさまざまな異文化の社会が形成された。本授業では、移民の定住によって多文化化した社会が直面した多様な問題群を整理しつつ、従来の多文化主義、文化多元主義の問題点を考究し、多文化共生のための新たな知的枠組みを構築する。
2019年度以前生 41830010-001 ○人口移動と多文化社会論① 41830010-001 △人口移動と多文化社会論①		

<p>2020年度以降生 41830120-001 ○グローバル社会特殊研究Ⅱ・① 41830120-011 △グローバル社会特殊研究Ⅱ・①</p>	<p>中西 久枝</p>	<p>グローバリゼーションが伸展する現在、先進国・途上国を問わず、安全・安心・共生をいかに社会全体がつくり上げていかが問われている。それは、広義の公共性とは何かを追求することである。本授業は、学生のそれぞれの専門分野とする地域あるいはテーマにおいて、公と私、公共善、市民性の概念がどう人々によって共有されているかを取り上げ、市民社会とは何かを分析する能力を養う。その上で、各国の市民社会が他の地域の市民社会とどうつながっているかを、各自の論文テーマに照らし合わせ、グローバルな市民社会への理解を深める。</p>
<p>2019年度以前生 41830020-001 ○開発政策論① 41830020-011 △開発政策論①</p>		
<p>2020年度以降生 41830130-001 ○グローバル社会特殊研究Ⅲ・① 41830130-011 △グローバル社会特殊研究Ⅲ・①</p>	<p>峯 陽一</p>	<p>東南アジア、東アジア、アジア、アフリカ、欧州、ラテンアメリカなどの事例について、人間の安全保障の思想と実践の地域的なフレームワークを理解する。カナダの人道介入の原理、いわゆる日本型の包括的アプローチ、そしてアメリカ合衆国の責任主権の枠組みを対比させつつ、それぞれの視角が地域的な安全保障の枠組みをどう変えつつあるかについて、受講生の発表をもとに議論する。地域の選択にあたっては受講生の研究分野を参考にしながら、ASEANやEUといった地域機関が人間の安全保障の原理をどう取り込もうとしているかに特に注意を払うことにしたい。</p>
<p>2019年度以前生 41830030-001 ○地域安全保障論① 41830030-011 △地域安全保障論①</p>		
<p>2020年度以降生 41830140-001 ○グローバル社会特殊研究Ⅳ・① 41830140-011 △グローバル社会特殊研究Ⅳ・①</p>	<p>西川 由紀子</p>	<p>グローバリゼーションは国家間の紛争だけでなく国内紛争にも多様な影響をもたらしている。本授業では、紛争のデータセットを用いた分析方法を学び定量的な分析方法と、各自の研究テーマに沿った紛争の定性的な分析方法を学習する。グローバリゼーションがもたらした変化を国内のおよび国際的要因の両側面から分析が行えるよう関連の文献を精読する。</p>
<p>2019年度以前生 41830070-001 ○グローバル化とジェンダー① 41830070-011 △グローバル化とジェンダー①</p>		
<p>2020年度以降生 41830150-001 ○グローバル社会特殊研究Ⅴ・① 41830150-011 △グローバル社会特殊研究Ⅴ・①</p>	<p>Anne GONON</p>	<p>春学期の内容： フランクフルト学派の批判理論は、新しい問題や解放のための新しい可能性に思考が対応しなければならないことを主張しているため、この新しいミレニアムにおいても重要である。このセミナーでは、実践のための理論とその逆の重要性を強調し、批判理論が今でも社会に対する統合的な批判を提供できるかどうかを検証する。</p> <p>秋学期の内容： この授業では、いくつかのフェミニストのフレームワークのサーベイを行う。フェミニストのテキストに焦点を当て、2つの方向からアプローチしていく。一つは、フェミニズムの現代史と実際の主要なトレンドに関連するものである。目的は、アメリカだけでなく、ヨーロッパやアジアで理論を発展させた主要な思想家を発見し、読むことである。もう一つのテーマは、プライベートとパブリックの境界に関するものである。読むテキストは参加者の興味に合わせて選ぶ。</p>
<p>2019年度以前生 41830050-001 ○市民社会と人道主義① 41830050-011 △市民社会と人道主義①</p>		

2020年度以降生 41830160-001 ○グローバル社会特殊研究Ⅵ・① 41830160-011 △グローバル社会特殊研究Ⅵ・①	菊池 恵介	この授業では、現代ヨーロッパが直面する主要な問題を取り上げる。たとえば、EUの市場統合・通貨統合に伴う地域格差や階層格差の拡大、欧州債務危機と緊縮政策の影響、移民排斥やポピュリズムの台頭などである。履修者の研究テーマに応じて2、3のトピックを選び、関連する外国語文献（仏語、英語）の読解、整理、発表などを重ねていく。最新の研究動向を把握すると同時に、各人の専門領域の裾野を広めることが授業の目的である。
2019年度以前生 41830080-001 ○グローバル化とレイシズム① 41830080-001 △グローバル化とレイシズム①		
2020年度以降生 演習Ⅰ・Ⅱ		本演習は、グローバル社会研究に関する博士学位論文作成のための準備をし、受講生に論文作成に必要な理論、知識、方法論を修得させることを目的として行われる。受講生は先行研究論文、関連論文や主題展開のための方法論、データ収集・解析法などに関する課題レポートや研究発表を行い、討議、論評、点検を通して、学位論文の作成に不可欠な論理的思考能力、批判的読解・分析能力、視点の独創性を養うことをめざす。
2019年度以前生 グローバル社会特殊研究		
2020年度以降生 41830100-001 ○演習Ⅰ・① 41830200-001 △演習Ⅱ・①	峯 陽一	国際関係論・地域研究・多文化共生にかかわる理論的な文献を、春学期と秋学期それぞれで選定し、参加者全員で熟読する。理論的文献の精読のコツを身につけることが目的である。文献の言語は英語ないしフランス語を予定している。また、適宜、授業参加者による現在進行中の研究の報告を受ける。日本に滞在中の海外の研究者(紛争研究、開発研究)をお招きし、当該分野の最先端の研究を紹介してもらうとともに、授業参加者の研究発表にコメントしていただくような機会も積極的に設けていく。
2019年度以前生 41830000-001 ○グローバル社会特殊研究① 41830000-011 △グローバル社会特殊研究①		
2020年度以降生 41830100-002 ○演習Ⅰ・② 41830200-002 △演習Ⅱ・②	内藤 正典	現代におけるイスラームと西欧との関係を検討する。冷戦の終焉から今日にいたる時期に焦点を当て、西欧世界におけるイスラーム・フォビア（イスラームへの嫌悪）が、いかなる文脈で形成され、西欧諸国において、正当化されていったのかを具体的な事例を基に検証していく。同時に、イスラーム圏諸国およびヨーロッパにおけるムスリム移民社会の側が、イスラーム・フォビアに対して、どのように応答したのかを検討する。
2019年度以前生 41830000-002 ○グローバル社会特殊研究② 41830000-012 △グローバル社会特殊研究②		
2020年度以降生 41830100-003 ○演習Ⅰ・③ 41830200-003 △演習Ⅱ・③	中西 久枝	グローバル社会が抱える課題のなかに、地球規模的におこっている人の移動がある。トランスナショナルな人の移動によって、それぞれの社会は、平時においては移民、難民、外国人受け入れ問題、紛争地域やその周辺地域においては難民・国内避難民の保護の問題として、公共政策の課題として抱える。本授業では、学生が各自の論文テーマに合わせ、難民や外国人受け入れ問題などが、それぞれの社会にどのような変容をもたらしているかについて理解を深める。
2019年度以前生 41830000-003 ○グローバル社会特殊研究③ 41830000-013 △グローバル社会特殊研究③		

<p>2020年度以降生 41830100-004 ○演習Ⅰ・④ 41830200-004 △演習Ⅱ・④</p>	<p>Anne GONON</p>	<p>グローバル社会の構築に関する諸課題の中で、多文化共生は主な課題の一つである。本演習では、欧州連合の形成過程を事例にして共生の条件を問い、具体的な問題とそれを解決するために選ばれた手段を考察する。多言語主義、人権、多文化主義などの理念のもとで行われている政策の枠組みにおいて、ヨーロッパ人が諸問題に対して考え出した様々な戦略を、日本語、フランス語、英語の文献を通して学びながら、批判的読解を行う。なお、本演習では受講生は自身の具体的な研究関心をより広い社会学的・文化人類学的文脈の中に位置づけた上で、独自の理論的な枠組みを確定することを目指さねばならない。</p>
<p>2019年度以前生 41830000-004 ○グローバル社会特殊研究④ 41830000-014 △グローバル社会特殊研究④</p>		
<p>2020年度以降生 41830100-005 ○演習Ⅰ・⑤ 41830200-005 △演習Ⅱ・⑤</p>	<p>西川 由紀子</p>	<p>本授業ではグローバル化が進んだ世界における武力紛争の動向を捉えるとともに変容する国際関係のもとで変化する紛争のダイナミズムを捉えることを目的とする。グローバル化と紛争に関する文献を精読し、国際社会と紛争について理解を深める。各自の論文テーマに沿った報告を行ってもらい、グローバリゼーションが紛争に与える影響について理解を深める。</p>
<p>2019年度以前生 41830000-005 ○グローバル社会特殊研究⑤ 41830000-015 △グローバル社会特殊研究⑤</p>		
<p>2020年度以降生 41830100-006 ○演習Ⅰ・⑥ 41830200-006 △演習Ⅱ・⑥</p>	<p>菊池 恵介</p>	<p>この演習は、グローバリゼーションに伴う諸問題（たとえば、新自由主義と格差問題、人種主義やポピュリズム、資本主義と気候変動など）に関する博士論文を準備する学生を対象とする。各自の研究テーマに関連する外国語文献（フランス語、英語）の精読を通じて、先行研究の検討、理論的枠組みの整理、研究方法の確認などを行うと同時に、各人の研究発表の機会を設けることで、博士論文の執筆を促していく。</p>
<p>2019年度以前生 41830000-006 ○グローバル社会特殊研究⑥ 41830000-016 △グローバル社会特殊研究⑥</p>		